

福祉経営学部(通信教育)におけるソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱについて

福祉経営学部（通信教育）では、2023 年度に「ソーシャルワーク実習Ⅰ」、2024 年度に「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を配属し、包括的支援に向けた実践力を涵養する実習教育に取り組みます。各実習の詳細は以下のとおりです。

■ソーシャルワーク実習Ⅰ：ソーシャルワーカーの基盤を形成する「導入教育」

- ・実習時期：2023 年 11 月から 2024 年 1 月（予定）
- ・配属学年：3 年（2021 年入学生）
- ・実習日数：5 日間（概ね 1 日 7.5 時間× 5 日間＝37.5 時間）
- ・配属人数：1～5 名（可能な限り同時期に複数名）
- ・ねらい：ソーシャルワーカーとしての基盤を形成する導入教育として、次の 2 つの獲得を目指す。
 - ①基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成
 - ②実習施設（機関）の地域社会における役割の理解

■ソーシャルワーク実習Ⅱ：ソーシャルワーカーの実践力を獲得する「基礎～発展教育」

- ・実習時期：2024 年 6 月から 2024 年 10 月（予定）
- ・配属学年：4 年（2021 年入学生）
- ・実習日数：27 日間（概ね 1 日 7.5 時間× 27 日間＝202.5 時間）
- ・配属人数：1 名～5 名
- ・ねらい：ソーシャルワーカーとしての実践力獲得に向けて、次の 7 つの獲得を目指す
 - ①利用者等との援助関係の形成
 - ②実習施設（機関）の管理運営の実際、
 - ③支援計画の作成、実施、評価
 - ④多職種連携等の実践的理解
 - ⑤地域での分野横断の関係形成や社会資源の開発等の理解
 - ⑥社会福祉士の職業倫理と組織における役割・責任の理解
 - ⑦ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解

[実習Ⅰと実習Ⅱの教育内容]

ソーシャルワーク実習Ⅰ（5 日間）	ソーシャルワーク実習Ⅱ（27 日間）
クライアントとのかかわりを通して、人々が暮らす地域と人間関係の形成を理解する	地域で暮らすクライアントの状況をアセスメントし、支援計画を作成、実施、評価できる
人々の暮らしを支える地域資源（施設や専門職）を理解する	地域にある様々な施設や専門職間における多職種連携を理解し、実践できる
人々が暮らす地域を理解する	施設・機関の地域における役割を理解し、分野横断的な関係形成と社会資源の開発を提案できる